

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

Ref. 9

(11)Publication number : 2001-213420

(43)Date of publication of application : 07.08.2001

(51)Int.Cl.

B65D 1/34
B65D 43/10

(21)Application number : 2000-029360

(71)Applicant : GIKEN KASEI KK

(22)Date of filing : 07.02.2000

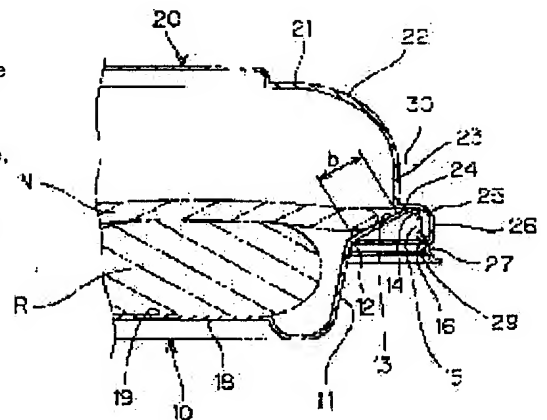
(72)Inventor : HORIKAWA HIDEHIRO

(54) PACKAGING CONTAINER

(57)Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To provide a packaging container on which a condensation water from a cover is not stored on the upper edge of a container main body and which does not clamp a stored material between the peripheral edges of the container main body and the cover.

SOLUTION: The packaging container is formed of the tray-shaped container main body 10 with a flange-shaped upper edge (a) and the cover 20 covering the container main body 10, and the flange-shaped upper edge (a) of the container main body 10 is provided with an oblique section 13 formed from the upper end of a side wall section 11 to the outer position to be higher toward the outer side, while the cover 20 is provided with a suspended side wall section 23, out of all wide walls, reaching the position of the oblique section 13 of the container main body 10 when the cover is fitted on, and the oblique section 13 of the container main body 10 is so constituted as to leave the width on the inner side of the suspended side wall section 23 of the cover 10 wider than the outside of the suspended side wall section 23 when the container main body 10 is fitted with the cover 20.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号
特開2001-213420
(P 2 0 0 1 - 2 1 3 4 2 0 A)
(43) 公開日 平成13年 8 月 7 日 (2001. 8. 7)

(51) Int. Cl. ⁷	識別記号	F I	テマコード (参考)
B65D 1/34		B65D 1/34	3E033
43/10		43/10	3E084

審査請求 未請求 請求項の数 6 O L (全 5 頁)

(21) 出願番号 特願2000-29360 (P 2000-29360)

(22) 出願日 平成12年 2 月 7 日 (2000. 2. 7)

(71) 出願人 000158943

技研化成株式会社

兵庫県尼崎市猪名寺 3 丁目 5 番13号

(72) 発明者 堀川 秀博

兵庫県宝塚市山本野里 1 丁目 6 番 6 -402 号

(74) 代理人 100075155

弁理士 亀井 弘勝 (外 2 名)

F ターム (参考) 3E033 AA10 BA13 BA22 DA04 DA08

DD05 EA04 GA03

3E084 AA05 AA14 AA24 AB10 BA01

CA03 CC03 DA03 DB13 DC03

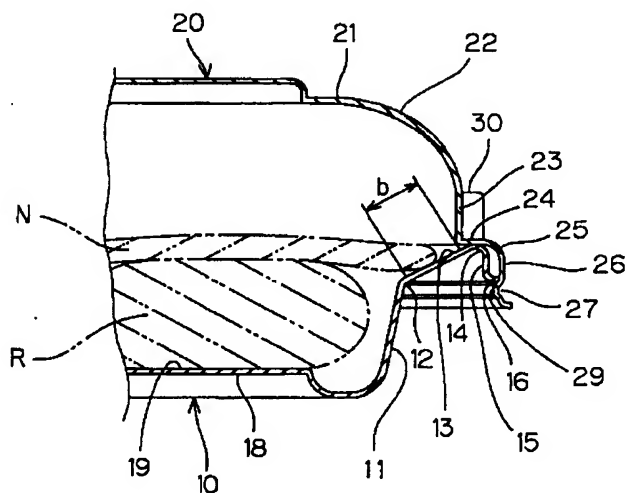
FA09 FC09 GA08 GB12

(54) 【発明の名称】 包装容器

(57) 【要約】

【課題】 容器本体の上縁部に蓋体からの結露水が溜まることなく、しかも容器本体と蓋体の互いの周縁間に収納物が挟まれたりすることのない包装容器を提供すること。

【解決手段】 フランジ状上縁部 a を有するトレイ状の容器本体 1 0 と、容器本体 1 0 に被せる蓋体 2 0 とからなり、容器本体 1 0 のフランジ状上縁部 a は、少なくとも側壁部 1 1 上端から外方位置に外方側ほど高くした斜状部 1 3 を設けてあり、他方蓋体 2 0 は嵌合時に側壁のうちの垂下側壁部 2 3 が上記容器本体 1 0 の斜状部 1 3 位置に達するように形成してあり、容器本体 1 0 と蓋体 2 0 との嵌合時に、容器本体 1 0 の斜状部 1 3 には蓋体 1 0 の垂下側壁部 2 3 より内方側に、垂下側壁部 2 3 の外方側より広幅が残るように構成されてあることを特徴とする包装容器。



【特許請求の範囲】

【請求項 1】 フランジ状上縁部を有するトレイ状の容器本体と、容器本体に被せる蓋体とからなり、容器本体のフランジ状上縁部は、少なくとも側壁部上端から外方位置に外方側ほど高くした斜状部を設けてあり、他方蓋体は嵌合時に側壁のうちの垂下側壁部が上記容器本体の斜状部位置に達するように形成してあり、容器本体と蓋体との嵌合時に、容器本体の斜状部には蓋体の垂下側壁部より内方側に、垂下側壁部の外方側より広幅が残るように構成されてあることを特徴とする包装容器。

【請求項 2】 容器本体の斜状部の幅が 4 ～ 2 0 mm であって、蓋体の垂下側壁部より内方側の幅が全体幅の少なくとも 2 / 3 を占めていることを特徴とする上記請求項 1 記載の包装容器。

【請求項 3】 容器本体におけるフランジ状上縁部は、容器本体の側壁部上端から順次、第一湾曲部、斜状部、第二湾曲部、垂下周縁部および延長部を延設してあり、他方蓋体は、上面部の端から順次、湾曲側壁部、垂下側壁部、水平部、湾曲周縁部、垂下周縁部および延長片を延設してあり、蓋体の水平部、湾曲周縁部、垂下周縁部および延長部が容器本体の第二湾曲部、垂下周縁部および延長部を被包して嵌合できるようにしてあることを特徴とする請求項 1 または 2 記載の包装容器。

【請求項 4】 蓋体の側壁のうちの垂下側壁部は、水平部に対する容器内方側の傾斜角度が 7 0 ° ～ 9 0 ° を有し、側壁のうちの湾曲側壁部は外方へ膨出した曲面を有していることを特徴とする上記請求項 3 記載の包装容器。

【請求項 5】 蓋体における垂下周縁部のうちの下端近辺に内方への突出部を形成してあることを特徴とする上記請求項 3 または 4 記載の包装容器。

【請求項 6】 容器本体が熱可塑性樹脂発泡シートまたはこれに少なくとも一層の熱可塑性樹脂フィルムが積層された熱可塑性樹脂発泡シートの成形品であり、且つ蓋体が熱可塑性樹脂非発泡シートの成形品であることを特徴とする請求項 1 ～ 5 の何れかに記載の包装容器。

【発明の詳細な説明】

【 0 0 0 1 】

【発明の属する技術分野】 本発明は包装容器に関し、特に寿司用（鮎用）の包装容器として好適品を提供するものである。

【 0 0 0 2 】

【従来の技術および発明が解決しようとする課題】 従来における陳列販売されている寿司を収容したり、テイクアウトされる寿司を収容する包装容器としては、容器本体 5 0 の側壁における立上り部 5 1 と、蓋体 6 0 の側壁における垂下部 6 1 とが突き合わせられ、且つ互いの周縁部が嵌合されるような嵌合形態であった（図 4 参照）。そのため、蓋体を容器本体に閉蓋した際、容器本体 5 0 の周縁となる上縁部 5 2 に蓋体からの結露が溜ま

り易い問題点があるほか、にぎり寿司を容器本体に収納物として詰め合わせた場合、にぎり寿司は舍利 R（米飯）の上に寿司ねた N（例えばマグロ等の魚）がのせられているもので、多くの場合舍利 R よりも寿司ねた N の方が大きかったり長かったりするため、舍利 R から、はみ出して容器本体の上縁部 5 2 の上に一部がのることが多く、そうした場合に、容器本体 5 0 の上方から蓋体 6 0 を被せると、容器本体 5 0 の周縁と蓋体 6 0 の周縁間に寿司ねた N が挟まれてしまい、容器としての収納形態が非常に不体裁且つ不具合な状態となり、収納不良に陥り易いという問題点があった。

【 0 0 0 3 】 そこで、上記したような課題となる問題点を解消できるような包装容器を提供すべく鋭意研究の末、本発明を完成するに至ったものである。

【 0 0 0 4 】

【課題を解決するための手段】 本発明による包装容器としては、請求項 1 に記載したように、フランジ状上縁部を有するトレイ状の容器本体と、容器本体に被せる蓋体とからなり、容器本体のフランジ状上縁部は、少なくとも側壁部上端から外方位置に外方側ほど高くした斜状部を設けてあり、他方蓋体は嵌合時に側壁のうちの垂下側壁部が上記容器本体の斜状部位置に達するように形成してあり、容器本体と蓋体との嵌合時に、容器本体の斜状部には蓋体の垂下側壁部より内方側に、垂下側壁部の外方側より広幅が残るように構成されてあることを特徴としている。

【 0 0 0 5 】 上記請求項 1 記載の包装容器によると、容器本体のフランジ状上縁部に設けた斜状部は少なくとも側壁部上端から外方位置に外方側ほど高くしたもののゆえ、蓋体からの結露水が上縁部に溜まったりせず斜状部から下方へと誘導されて容器本体の底部側へと結露水を降下させ易くなる。また、請求項 1 記載の包装容器によると、蓋体の側壁のうちの垂下側壁部が容器本体の斜状部位置に達するように形成されてあるが、容器本体と蓋体との嵌合時に、容器本体の斜状部には垂下側壁部より内方側に外方側よりも広幅となる部分が残るようにしてあるため、にぎり寿司を収納した際、舍利上にのる寿司ねたが大きかったり、長かったりして舍利からはみ出しても上記斜状部に位置させておくことにより、蓋体を被せた時の寿司ねたの挟み込みを回避することができ、収納上の体裁を良好にできることになる。

【 0 0 0 6 】 上記した容器本体の斜状部については、請求項 2 に記載したように、4 ～ 2 0 mm であって、蓋体の垂下側壁部より内方側の幅が全体幅の少なくとも 2 / 3 を占めていることを特徴としていると、上記したような結露水の降下作用や、寿司ねたの挟み込み防止の効果を果たし易くなる。また、本発明は請求項 3 に記載したように、容器本体におけるフランジ状上縁部は、容器本体の側壁部上端から順次、第一湾曲部、斜状部、第二湾曲部、垂下周縁部および延長部を延設してあり、他方蓋

10

20

30

40

50

体は、上面部の端から順次、湾曲側壁部、垂下側壁部、水平部、湾曲周縁部、垂下周縁部および延長片を延設しており、蓋体の水平部、湾曲周縁部、垂下周縁部および延長部が容器本体の第二湾曲部、垂下周縁部および延長部を被包して嵌合できるようにしてあることを特徴としていると、容器本体のフランジ状上縁部に対する蓋体の嵌合による閉蓋が行い易く、また開蓋時の蓋体の取外しも行い易いものとなる。

【0007】また、本発明においては、請求項4に記載したように、蓋体の側壁のうちの垂下側壁部は、水平部 10 に対する容器内方側の傾斜角度が $70^{\circ} \sim 90^{\circ}$ を有し、側壁のうちの湾曲側壁部は外方へ膨出した曲面を有していることを特徴としていると、蓋体の垂下側壁部として安定した傾斜角度となり、外方へ膨出した湾曲側壁部と連続した形態としても安定した蓋体を構成できることになる。また、本発明においては、請求項5に記載したように、蓋体における垂下周縁部のうちの下端近辺に内方への突出部を形成してあることを特徴としていると、容器本体に対する蓋体を被せての閉蓋作用を弾性よく行えたと共に、一旦嵌合すると、開蓋力を加えない限り閉蓋状態を妄りに解除させずに確実に維持できることになる。

【0008】さらに、容器本体と蓋体の材質については、請求項6に記載したように、容器本体が熱可塑性樹脂発泡シートまたはこれに少なくとも一層の熱可塑性樹脂フィルムが積層された熱可塑性樹脂発泡シートの成形品であり、且つ蓋体が熱可塑性樹脂非発泡シートの成形品であることを特徴としていると、容器本体に断熱性と緩衝性とを付与できるとともに、蓋体を透明に実施でき、収容物品を透視し易くして収容物品を引き立たせることができる。また全体としてはリサイクル可能な包装容器となる。

【0009】

【発明の実施の形態】次いで、本発明の実施形態について図を参照しながら以下に説明する。図1は開蓋状態を示しており、図3は閉蓋状態を示しており、収容物品としてはにぎり寿司を収納した場合を示している。図において、10は容器本体、20は蓋体であって、順次その形態を説明すると、容器本体10にはフランジ状上縁部aを有しており、このフランジ状上縁部aは、側壁部1 40 1の上端から順次、第一湾曲部12、外方側ほど高くした斜状部13、下方側への第二湾曲部14、垂下周縁部15および外方へ戻った延長部16を延設している。蓋体20には上面部21の端から順次、湾曲側壁部22、垂下側壁部23、水平部24、湾曲周縁部25、垂下周縁部26および外方へ戻った延長部27を延設している。

【0010】そして、容器本体10と蓋体20との嵌合時における容器本体10の斜状部13と、蓋体20の側壁のうちの垂下側壁部23との関連について説明する 50

と、垂下側壁部23が斜状部13の位置に達するように形成しており、斜状部13は蓋体20からの結露水を降下させ、上縁部aに溜まるのを防止できる。そして上記嵌合時において、容器本体10の斜状部13には蓋体20の垂下側壁部23より内方側に、垂下側壁部23の外方側より広幅が残るように構成されている。

【0011】従って、その広幅部には、例えば収容物ににぎり寿司の場合、舍利R上からはみ出した寿司ねたNをのせることができ、寿司ねたNが容器本体10と蓋体20間に挟まれるのを防げる。上記斜状部13の幅としては容器全体の大きさによっても実施上相違するが、通常は4~20mm位であって、蓋体20の垂下側壁部23よりも内方側の幅b（図3参照）が全体幅の少なくとも2/3を占めていることが前述した使用上の効果から好ましいものである。

【0012】また蓋体10の側壁のうちの垂下側壁部23は、水平部24に対する容器内方側の傾斜角度 α が $70^{\circ} \sim 90^{\circ}$ 、好ましくは 80° を有し、側壁のうちの湾曲側壁部22は外方へ膨出した曲面を有しており、蓋体20が透明体の場合、収容物を見易い形態であるとともに、容器本体10に被せて閉蓋する蓋体20として形態上安定したものとなる。また、17は容器本体10の底部19の周辺と側壁部11との間に形成した周溝であって、斜状部13を降下した結露水等を拡散させないで溜め得るようにしているものである。

【0013】さらに図中28は蓋体20の上面21に形成した凸面部であって、容器本体10の底面19の裏側に形成した凹面部18とを段積みのため嵌合し合うものである。また、蓋体20に形成した小突部30は蓋体20のスタック時に重なり合いを回避するためのもので蓋体20どうしても位置を少しずつ異にして形成している。図中29は蓋体20の垂下周縁部23のうち下端近辺に形成した突出部であり、容器本体10の上縁部aにおける先端の延長部16に係合して妄りに蓋体20が開蓋しないようにしてある。

【0014】なお、容器本体10および蓋体20の材質に関して説明すると、容器本体が熱可塑性樹脂発泡シートまたはこれに少なくとも一層の熱可塑性樹脂フィルムが積層された熱可塑性樹脂発泡シートの成形品であり、且つ蓋体が熱可塑性樹脂非発泡シートの成形品であることを特徴としているもので、より具体的には、例えば容器本体10がポリスチレン系樹脂発泡シートであり、これにフィルムが積層されて実施される場合にはフィルムもポリスチレン系樹脂を用い、蓋体20としては、ポリスチレン系樹脂の非発泡シートを用い、透明であることが好ましい。これらの容器本体10と蓋体20は何れもリサイクル可能なものとなる。

【0015】本発明による包装容器は、上記したにぎり寿司のほか、ちらし寿司、刺身等の収納に対しても好適となる。

【0016】

【発明の効果】容器本体と蓋体とを嵌合するときに、舍利からはみ出した寿司ねたが、容器本体のフランジ状上縁部における斜状部のうちと、蓋体の垂下側壁部より内方側の空間に収まるので、寿司ねたを挟み難くなる。容器本体のフランジ状上縁部における斜状部が外方ほど高く傾斜していて容器内側に傾斜しているので、蓋体等の結露水が蓋体の湾曲側壁部および垂下側壁部を伝って、フランジ状上縁部における斜状部に落下し、その後容器本体の底部（底部外周に設けた溝部）に溜まることにより、容器本体の上縁部に溜まるのを防ぐことができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】 開蓋状態の斜視図である。

【図2】 開蓋状態の一部の断面図である。

【図3】 閉蓋状態の一部の断面図である。

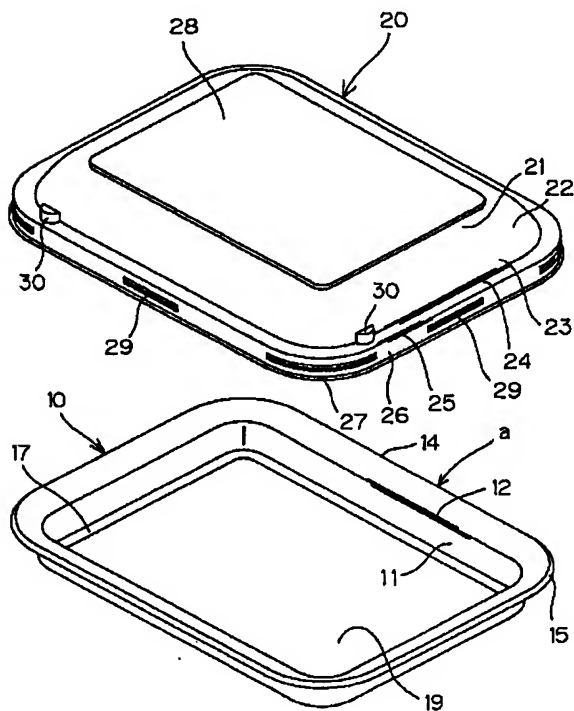
【図4】 従来例を示す断面図である。

【符号の説明】

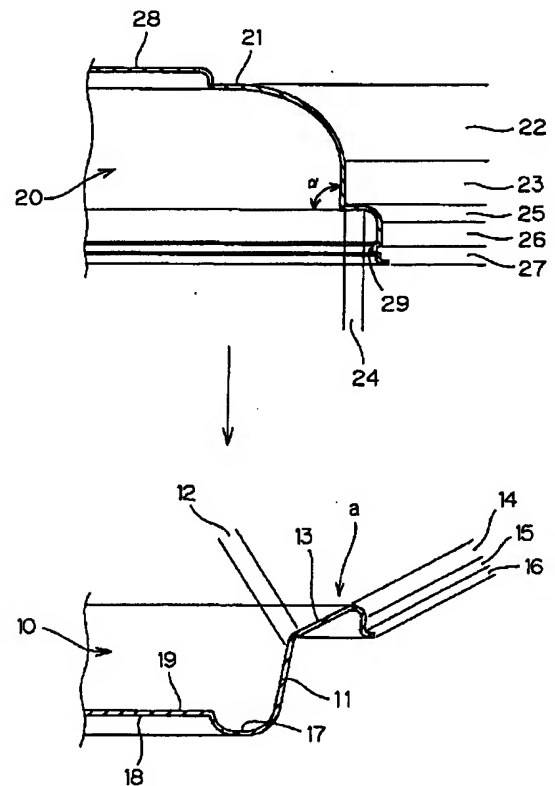
- 10 容器本体
a フランジ状上縁部
11 側壁部
12 第一湾曲部

- 13 斜状部
14 第二湾曲部
15 垂下周縁部
16 延長部
17 周溝
18 凹面部
19 底部
b 斜状部のうち蓋体の垂下側壁部より内側の幅
20 蓋体
21 上面部
22 湾曲側壁部
23 垂下側壁部
 α 垂下側壁部の傾斜角度
24 水平部
25 湾曲周縁部
26 垂下周縁部
27 延長部
28 凸面部
29 突出部
30 小突起

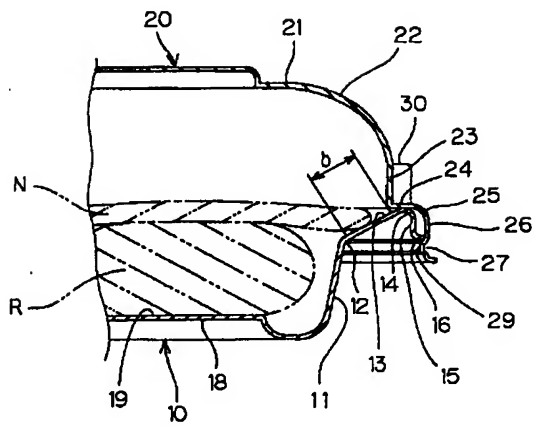
【図1】



【図2】



【図 3】



【図 4】

